

●幹部研修会で岐阜県岐阜市や各務原市、岐阜羽島市などを回りました。 11月20日(木)、21日(金)

目的として竹の粉碎機の能力と効果、木曽川のイタセンパラの現状を知る事と対応を学び、里山の会に生かせるヒントを獲得することとしました。同時に国宝犬山城の見学や淡水魚水族館の見学をと欲張った計画でもありました。最後に技術の発展の最先端に触れられることを付録にして取り組みました。そして観光バスでの大規模な研修会としての旅行を考えましたが冷静な判断に傾き確定した8名からさらに体調不良者がでて5名の研修参加となり受けいれて頂きやすい規模になりました。伊吹山植物園見学は欲張りすぎのプランとの意見で結成30周年記念にしてはとの意見で見送りました。

1 中部地方整備局で学んだポイント

木曽川上流河川事務所では山口さんから木曽川の特徴とイタセンパラの現状をお話しいただいた。玄関の水槽にイタセンパラが泳いでいた。最初にここでは木曽川のあちこちで生息しているとの報告と、環境庁が小学校などで教材として天然記念物のイタセンパラが飼育をさせられていることに大変驚いた。どのような状況で生息しているのか不明確で、確定できていないわからないのが現状だ。重機などで泥や落葉などの除去を行うと一挙に増加して発見されるが数年後には見つかなくなる。定着させるのが難しい魚であり、難しいと思われる。ワンドなどは入り口と出口があり流れているようで流れていないと見れるところが必要。溜りには深い所もあり浅い所も必要、大きな魚が入り込めない安全な場所があり、捕食されない場所が必要。これまで条件が揃う恒久的な所を作ろうとする方針ではダメで、今後「新居を絶えず作る方に変更する」。これが今回の幹部研修会の結論と思われました。補食者(ブルーギル等)もありであろう、外来魚対策に少し疑問あり、でもいい。しかし、いない方がいい、のだがと思いました。(資料が事務所にあります)



R2.9撮影

2 NPO 森林救援隊から学んだポイント

各務原市竹林救援隊は発足して約30年の実績を持っておられた。



作業服装 ヘルメット マスク 手袋 作業用靴

作業終了時には 道具の手入れ時間 30分行ってから解散

道具工具の使用方法と手入れ方法の学習会を必ず行う、周知している。

作業出席者 出席者20人程度に貸与、器具工具道具は貸与制度(個人責任で保管手入れ)

遠方者には 1500円が支給される

一般的には 1000円が支給 弁当持参

様々な特技を生かして充実改善 堆肥 チップ 竹細工 竹の皮(吉田さん)

粉碎機の使用 激しい騒音 使用場所の限定 埃対策(マスクの着用)

作業日	週2回2日としている
粉碎チップの活用	養鶏者が購入。2t トラックに山盛りの購入してくれる(飼料に利用されているらしい)
竹炭製作釜場所	きれいに手入れされた竹林 療癒される場所 竹酢液の製造 販売
竹チップの利用	堆肥化米ぬかを混合して 3回の切り替え 90度 70度 60度 水の補強
黒にんにくの生産	竹チップの発酵(米ぬかの混合)
野積みでカブトムシ発生養殖可能 実証済(野村)	

3 岐阜県自然共生研究センターで学んだポイント



この施設は河川法に環境という文言が加わった折りに施設が作られたもので、30年近くになる国立の研究施設である。本部がつくば



市にあり支部とされている。800mに及ぶ実験河(3本)もあり、様々な要因条件での調査研究が可能な施設で、自然の川では困難な調査ができる設備とされ、地下50mからくみ上げた地下水で川の温度の加減が出来て長期間の調査が可能である夢のような研究所だった。大型のスッポンが確認され、魚が多数確認されていた。人工で作り上げたもので、時間の経過の中で自然の復元が図られていた。



4 イーエスピー企画から学んだポイント



小さな町工場でしたが製作品が所狭しと置かれていました。最先端の製品を目指されている熱意がお話でよく伝わってきました。江崎さんは、京都大学で学ばれ京田辺市にも在住していました。



世界の科学技術が大変高度に進展している。中国などの製品はかつて安からう悪からうの時代を終えて、日本・米国などを超えているのではと思います。基礎技術は共有し、より良い製品を生み出し、その技術を超える発展を目指すべきで、技術製品製作者として意欲が必要と強調されました。今50kgの運搬を目指してのドローンに取り組んでいます。手元のプロペラは10kgの物を持ち上げられる中国製品で、ここまで進歩している。私は、自衛隊でドローンの操縦などを生徒に教えていく指導者の育成の講師として招かれて横須賀へ行っている。経済産業省のキャリア教育事業としてC言語を使ったロボット教室で4000人以上の子ども達に教えて好評を得ている。



11月22日(土)イーエスピー企画の江崎雅康社長様から手紙が届きました。

先日は岐阜県および弊社にご来訪いただき、ありがとうございます。同席させていただきました弊社顧問の青井もみなさまの活動をお聞きして、“いい話が聞けた、何よりもみなさまの元気な活動に感銘を受けた”と、申しています。

時間の制約もあり、みな様のご質問に十分お答えできたか、懸念しています。

私は高校時代まで岐阜県でしたが、進学そして就職と40年間枚方、六地蔵、八幡、そして京田辺市と関西に住んでいましたので、京都は第2の故郷です。退職後も7年間、京田辺と岐阜羽島の間を新幹線通勤していました。近鉄京都駅から階段を1分で駆け上がって新幹線に飛び乗り、1時間あまりで会社に通っていました。

今年は長い猛暑と急な冷え込みで、農作物の生育も変化しています。安納芋は養分を蓄える間がなくて収穫は例年の1/2、藤九郎銀杏も、いつまでも葉が緑色で収穫が遅れびっくりするほど小粒になっています。皆様にお持ち帰りいただいた藤九郎銀杏は、来訪いただいた前日にやっと仕上がった初物です。



年内も残りわずかですが、ドローン用ESCおよび電動車椅子用制御基板を仕上げ、12/16~1/18の東京ビッグサイト展示会とあわただしい毎日です。

最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍をご期待申し上げ、良い年を迎えるよう祈願いたします。
よろしくお願いします。

江崎雅康さんについて少しご紹介したいと思います。

日本屈種のエンジニアです。「もの作りの心を育てる電子教材と最新ソリューションシステム」をうみだすため イーエスピー企画という株式会社を1994年12月に設立されました。子ども向けの電子工作教室も開催されています。

2025年11月21日に江崎さんの会社を、やましろ里山の会メンバー5人で訪問しお話を伺いました。江崎さんの話は国際感覚に裏打ちされ、技術革新への並々ならぬ意欲に満ちた内容で心動かされるものでした。

「人生は定年で終わりではない。技術開発にも終わりはない。価値あるものを生み出せば変わることが、本当の技術開発はごくわずか。ヒトはホモサピエンス。アフリカで生き残った少数が世界に広がった。人数が多い少ないで物事は決まらない。予知能力や判断能力は最終的には人間がするもの。それをロボットにさせてはいけない。人間には寿命があり終着駅がある。より良いものを求めて今後も挑戦し続けたい」という話が1時間続きました。

今度2026年3月に江崎さんの講演会を開催します。長年の技術開発に込めた思いを語られます。多数お越しください。お待ちしています。



車窓から伊吹山の初冠雪



車窓からの犬山城

●木津川堤防の草刈り作業は 26 日で終了しました。

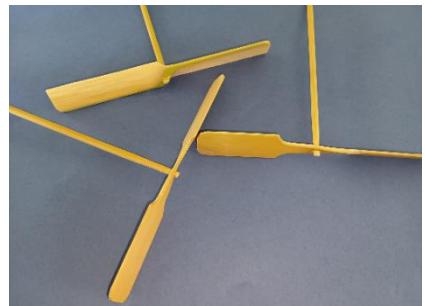
12月6日には同志社サッカーボランティアの皆さんと寺村さん、吉村さんが協力を申し出くださいました。そして翌日の7日(日)には寺村さんや吉村さんが応援するとお聞きしています。一時はどうなることになるのかと気をもみましたが、多くの皆さんのご協力のつながりで事がはかどる見通しが出来ました。お世話になりますがよろしくお願ひいたします。

●冬の昆虫観察会は 12月14日(日)に実行します。

今年の夏の暑さ続きは大変なものでした。そして秋は短くなりもうすぐ冬という季節になりました。人間も大いに慌てて季節に対応しています。小さな虫たちはどうしているのでしょうか。年間何回も生まれる者たちは対応や変化についていくことは可能でしょうが、いま人間社会は100年社会と言われば変化についていくことができていけるでしょうか。北海道では暑い夏冷房機が各家庭に無かったので大変だったと聞きました。小さな虫たちオオムラサキは何とか暑い夏を乗り切ったのでしょうか。エノキの落葉で冬越しの体制は取れているでしょうか。里山の会の中沢君や吉村君は3年～4年発見されていない幼虫や飛翔の姿を春夏に確認してくれています。国蝶オオムラサキの幼虫の発見に大きな期待をしています。みなさんの良い目で発見してください。ご参加をお待ちしています。

●新年の七草摘みと七草粥で無病息災を願って七草で新年の門出としましょう。

今年を振り返りますとぱっとしたアイデアがあまり無く、例年通りの繰り返しを行っていたことで新鮮さや魅力などの不足が気になります。そこで年初めの七草の摘みの会では竹のコマまわしと竹トンボでの遊びと作りをやってみようではないかと思います。会員の中にこうした細工に取り組んでみたいとか、指導してみようと思ふ。先日お尋ねした岐阜県各務原市の竹林救援隊から竹トンボを10本ほど頂いてきました。また野村さんは竹のコマを作成されています。モデルはございますのでぜひ作成に挑戦してみたいと思います。みなさんの知恵と腕をお貸しください。



いただいた竹トンボ

●京田辺市立中央図書館で会誌「里山の自然」が見られます。

開架書棚には1号から10号と26号から58号が並べられていて常時見ることができます。11号から25号も館内の車庫に保管されていますので、リクエストすればいつでも閲覧可能です。